

# 平成29年度 事業報告

## はじめに

わが国経済は、緩やかな回復が続いているものの先行きは楽観できない状況となっております。また、中小企業を中心に人手不足が顕在化し、さらに働き方改革の重要性が高まってきております。

健診・検査を取り巻く環境としましては、超高齢社会に突入し、生活習慣病や要介護状態など高齢化に伴う疾病が増加しており、これらの予防・早期発見に努めていくことがますます重要な課題となってきています。また、疾病構造の変化等により、ニーズが多様化してきており、こうした状況に対応するとともに、これからの動向に注視していく必要があります。

このような状況において、当協会では行政諸機関、地域医療機関及び保健機関等と連携し、受診者のニーズに応えられるよう受診しやすい環境づくりを推進するとともに、各種がん検診・特定健診・特定保健指導においては、積極的に受診勧奨を行うなど、受診率の向上に努めてまいりました。また、講演会の開催や、全面リニューアルによりさらに利用しやすくなったホームページ等で、地域住民に健康情報等を広く発信するなどし、予防医学の普及・啓発活動についても取り組んでまいりました。加えて、基幹システムの更新につきましては、平成29年度に要件定義作業が完了、また契約事業者も決定し、3年後の本格稼働に向けて平成30年度より構築がはじまる予定となっております。

経営面においては、健診センター及び健康ライフプラザにおける受診者数増や出張健診における新規受託などにより、事業収入は前年度を上回ることとなりました。しかし、平成29年度をもって健康ライフプラザにおける指定管理事業が終了したことや、基幹システム更新にかかる高額な支出が控えているなど、当協会を取り巻く状況は依然として厳しいことには変わりはありません。

これらを踏まえ当協会としては、人的・物的資源の効率的な運用により早期の経営基盤の安定を目指すとともに、予防医学事業のさらなる充実、健診・検査の精度向上を図り、これからも地域の健康寿命の延伸に資するという社会的使命を果たすためにさらなる努力を続けてまいります。

# 事業の概要

## 公益目的事業

当協会は、行政諸機関や地域医療機関及び保健機関との密接な協力関係のもと、各種健診・検査、健康支援及び健康教育等を行い、県民の疾病予防と健康増進に寄与することを目的とし、次の1から4の公益目的事業を実施した。

### 1. 疾病予防に関する知識の普及・啓発事業

#### (1) 広報・情報提供

##### ①機関紙「あすの健康」の発行

予防医学の知識の普及・啓発や健康づくりに関連する情報を広く提供することを目的に機関誌「あすの健康」を発行し、地方公共団体、関連団体、事業所及び各種団体等を通じ県民に健康情報等を発信した。

##### ②ホームページでの情報提供事業

パソコンだけでなくスマートフォン、タブレット等、利用者の閲覧環境に合わせてホームページ全体を最適な表示で利用できるように、閲覧対策（WEB レスポンシブ対応）を図り、ホームページの全面リニューアルを行った。

#### (2) 講演会開催、講師派遣、普及・啓発活動

予防医学の知識の普及・啓発を目的として、昭和46年に県民等を対象に「予防医学講演会」としてスタートした活動も現在、「予防医学フォーラム」「いきいきライフセミナー」「がんをよく知るための講座」を定期的で開催している。今年度は、次に示すテーマで開催した。

また、地域団体等からの要請を受けて講演会・講座への講師派遣を行った。

##### ①講演会開催

#### (ア) 予防医学フォーラム

昭和61年より、予防医学の普及・啓発を目的として、病気の話をはじめ、健康づくりや教養等様々なテーマを取り上げ、神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成29年11月11日（土）

◇場所 神戸新聞松方ホール

◇講演テーマ 「体内時計を味方につけて、いきいき健康！」

講師 京都府立医科大学 生理学教室 統合生理学部門

教授 八木田 和弘 氏

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 547名

(イ) いきいきライフセミナー

平成6年より、毎年9月のがん征圧月間にちなみ“がん”や“健康”等をテーマに神戸新聞社との共催で開催している。今年度の開催内容は以下のとおり。

◇開催日 平成29年9月9日(土)

◇場 所 神戸新聞松方ホール

◇講 演 テーマ 「健康長寿の秘訣－フレイル予防から考える－」

講 師 国立長寿医療研究センター 副院長 荒井 秀典 氏

◇健康表現体操 指 導 健康運動指導士 他

◇後 援 兵庫県／神戸市

◇参加者数 563名

(ウ) がんをよく知るための講座

平成10年度より、日本人の死亡原因のトップである“がん”について、最新の治療方法等、専門家から正しく新しい知識を学ぶことをテーマに、神戸新聞社との共催で開催している。今年度は以下の2回を開催した。

(i) ◇テ ー マ 「知って得する大腸がんの最新情報－予防から治療まで」

◇開催日 平成29年7月18日(火)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 兵庫医科大学 外科学講座 下部消化管外科 主任教授 富田 尚裕 氏

◇参加者数 88名

(ii) ◇テ ー マ 「あなたの知らない脳腫瘍の世界」

◇開催日 平成30年2月14日(水)

◇場 所 神戸市健康づくりセンター 健康ライフプラザ 5階多目的室

◇講 師 関西労災病院 副院長・脳神経外科部長 瀧 琢有 氏

◇参加者数 81名

②講師派遣

事業所や団体が開催する講演会、健康づくり教室等へ次のとおり医師を派遣した。

○講演会へ医師派遣：3回

テーマ「その健診受けっぱなしでいいですか?」「夏バテについて」

「ヘリコクターピロリ(ピロリ菌)について」

### ③普及・啓発活動

#### (ア) 結核・乳がんに関する知識の普及啓発

結核及び乳がんの早期発見を目的に、地方公共団体や各種団体が主催するキャンペーン事業に協力し、胸部 X 線検診車による結核検診及び乳房検診車による乳がん検診を行った。

○こうべ福祉・健康フェア：結核検診受診者 143 名

○母の日乳がん検診街頭キャンペーン：乳がん検診受診者 21 名

○ピンクリボンフェスティバル神戸大会：乳がん検診受診者 20 名

○結核ハイリスク者に対する早期発見および蔓延防止のための啓発活動

結核検診受診者：939 名

○子宮の日啓発イベント：乳がん検診受診者 27 名

#### (イ) 認知症予防に関する知識等の普及啓発

認知症予防に向けた自己健康管理への支援活動として、地域の自主グループなどを対象に認知症予防事業を行った。

○講演会：6 団体 参加者 224 名

#### (ウ) メディアとの連携

要介護予防事業の一環として、引き続きラジオ関西、神戸新聞社と連携し、認知症の予防啓発や高齢者の健康な生活の提案を目的に、「頭にいいラジオ」を製作・監修した。内容は、脳トレーニング、食生活、回想、コミュニケーション、運動などに加え、リスナーと直接コミュニケーションがとれる“なぞなぞ”を日替わりで放送した。その内容はラジオ関西が開発したスマートフォンアプリを使って、いつでも聴くことができる。

#### (エ) 書籍の発行

機関誌「あすの健康」に連載中の「赤ちゃんの四季」（中村肇神戸大学名誉教授）を編集し、書籍『赤ちゃんの四季』を神戸新聞出版センターより発行。「あすの健康」を提供している保育所、幼稚園、神戸市医師会会員の小児科、産科の診療所など約 500 カ所に配布した。

## 2. 疾病予防のための健康診断及び検査事業

### (1) 地域保健

#### ①特定健康診査及びがん検診

地方公共団体からの委託を受け、市民健診（国保特定健康診査・後期高齢者健診・若年者健診）を拠点会場において集団健診で実施した。休日健診実施や胃がん・乳がん検診同日実施等受診者サービスの向上を図り受診率の向上に努めた。健康ライフプラザにおいては、受診率の向上および受診者サービスの向上を目的として、神戸市国民健康保険に加入する方を対象に、特定健康診査とがん検診の同時受診

が可能な「セット健診」を引き続き実施し、受診者数は前年度より約1,000名増加した。

一部の自治体の市民健診会場においては、保健師や健診スタッフが重症化予防のための啓発を行い、要医療への未受診勧奨を行った。また、セット健診の受診者には、健診終了後原則全員を対象に、保健師、看護師、管理栄養士が、当日の身体、血圧、血液検査、尿検査の結果を説明し、要医療者への受診勧奨を行った。加えて、問診票による「COPD（慢性閉塞性肺疾患）リスクチェック」の結果に基づき、COPD検査（呼吸機能検査）及び禁煙支援を実施して重症化予防のための啓発を行った。

胃がん・乳がん検診は、通年で地域巡回により実施し、休日の検診実施を含めて受診率の向上に努めた。また、乳がん検診においては、医師・技師をはじめとするスタッフ全員を女性で実施する等受診しやすい環境づくりを推進し、受診率の向上に努めた。

地域大腸がん検診は、冬季限定による郵送方式を主体に実施しているが、神戸市大腸がん検診では、受診機会をさらに広げるため、郵送方式に加え市民健診及び神戸市セット健診時の持込方式を通年的に実施した。平成23年度から5年間実施された国の施策「働く世代の大腸がん検診推進事業」による無料クーポン制度が終了したことで、前年度は受診者数が大きく減少したが、今年度は逐年受診勧奨の強化や受診申込手続きの簡略化を図った結果、減少傾向は落ち着いた。一方、地方公共団体も特定健診受診者へのインセンティブとして大腸がん検診無料クーポンを付与するなど、独自の施策で受診率向上を図っている。今後も引き続き地方公共団体が行う事業を積極的に支援し、受診者拡大に向けた広報活動及び受診勧奨に係る提案等を積極的に行っていく。

## ②結核検診

地方公共団体より委託を受け、拠点会場において集団検診で実施した。また、神戸市からの委託を受け、症状があっても医療機関を受診しないハイリスク者に対する休日や夜間検診及び住所不定者や小規模事業従事者も含めた多様な生活形態への配慮と利便に工夫した検診を実施した。

今後もさらに受診しやすい環境を整備する等、受診機会の確保に努め、県民・市民の結核予防に寄与していく。

## ③エイズ（HIV/AIDS）検診

神戸市からの委託を受け、神戸市の中心街である三宮地区において、土曜日や夜間に定期実施を行った。

夜間検診で同時に実施できる性感染症検査では、例年通り梅毒、クラミジア検査を実施した。なお、クラミジア検査については、血液検査よりの確な診断が可能である尿による検査を平成26～28年度と同様に実施した。引き続き、受診者へのプライバシーを配慮し、受診しやすい環境を整えていく。

## ④もの忘れリスク健診及びフレイル健診

認知症発症予防を支援するため、もの忘れや心身の老化の状態をチェックし、改善に向けたアドバイスを行う「もの忘れリスク健診」を実施した。

また、神戸市市民健診会場においては、国保の特定健康診査を受診していただく65歳を迎えられる方を対象に、加齢とともに全身の予備能力や筋力、心身の活力が低下している状態を早期発見するために「フレイル健診」を実施した。

## (2) 学校保健

県下の各市町教育委員会及び大学・私立学校法人からの委託を受け、地区医師会の協力を得て、学校保健安全法に基づく腎臓・糖尿病検診、寄生虫検査、心臓検診、脊柱検診及び結核検診を実施した。検体検査分野を始めとして、地方公共団体による入札制度や見積り合せにより厳しい状況であったが、児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与するために健診・検査の質を低下させることなく、ニーズに応えた日程調整を行う等円滑な実施をめざし、きめ細やかな取り組みを行った。特に脊柱検診においては、デジタル撮影装置を導入し、さらなる精度向上を図った。

また、教職員に対する定期健康診断、特定健康診査及び各種がん検診を実施し、各学校における健康管理の充実を図った。

少子化により児童・生徒数は減少傾向にあるが、今後も積極的な検診実施に取り組むとともに、専門医との連携による検診精度の維持・管理に努め、県下の児童・生徒の疾病予防及び健康管理に寄与していく。

## (3) 産業保健

地方公共団体や一般企業の事業所等で働く人を対象に、労働安全衛生法に基づく定期健康診断、特殊健康診断及び行政指導によるVDT健診等、職業性疾病予防と早期発見を目的として健診・検査を実施した。

地方公共団体等における入札制度や見積り合せにより厳しい状況が続いているが、当協会が所有する検診車の機動力を生かした出張健診による迅速で柔軟な対応や精度等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、継続的な健康情報の提供による事業所等の労働衛生の向上及び働く人の健康づくりに貢献した。

メンタルヘルス対策にかかるストレスチェック制度については、システム・実施体制等が評価されたことにより、新規受託や既存契約先と継続して受託することができ、引き続き「こころ」と「からだ」の両面から健康の管理・増進に取り組み、働く人の健康づくりを進めていく。

## (4) 総合健診

県民の疾病予防と健康増進を目的として、神戸市灘区の健診センターと神戸市兵庫区の健康ライフプラザの2施設において総合健診を実施した。

多様なニーズに応えられるよう、総合健診のコースは、「半日ドック」、「2時間ドック」や「一泊ドック」に加え、健診センターでは「肺ドック」や「循環器ドック」、健康ライフプラザでは「脳ドック」をそれぞれ実施した。

オプション検査としては、「胸部CT検査」、「頭部MR検査」、「骨量測定」、「マンモグラフィ検査」、

「乳房超音波検査」、「子宮頸がん検査」等、希望に応じて幅広い総合健診を実施した。特に需要が年々高まっている胃内視鏡検査については、可能な限り実施枠を増やすなどし、順調に実施件数を伸ばしているが、医師の確保や稼働率の更なる向上が困難な課題となってきた。

今後は受診者の待ち時間の更なる短縮を図るなど接遇面の向上とともに、健康保険組合連合会をはじめ、社会的にも健診後のフォローアップの重要性が求められており、結果説明・要精密検査者への受診勧奨等をさらに充実させ、魅力ある総合健診を提供し、県民の健康増進に寄与できるよう努めていく。

## (5) 保健指導

### ①各種健康診断結果等を踏まえた地域・職域における保健指導

地方公共団体の市民健診会場や事業所に出張して健診結果等を踏まえた保健指導を実施し、健診の継続受診や要医療者への受診勧奨を行った。また、市民健診会場において前年度の健診結果における要医療者のうち、未受診者への受診勧奨を行い、早期発見・早期治療のための受診の動機づけを行った。

また、事業所等へ出張により骨粗しょう症予防や、健診結果の見方等の研修会を実施し、健康で働き続けるための支援を行った。

### ②労働安全衛生法に基づく労働者の健康管理、作業管理等における保健指導

平成26年3月に11年ぶりの改正となった「健康づくりのための睡眠指針2014」を踏まえて、睡眠に問題を抱えた人は生活習慣病やうつ病のリスクが高まることや、熟睡のコツや疲労、排泄についての情報を盛り込んだ研修会を実施し、作業効率改善や安全な労働の確保に必要な自己健康管理について学ぶ機会を提供した。

### ③高齢者医療の確保に関する法律に基づく特定保健指導

国民健康保険をはじめ、全国健康保険協会並びに各種健康保険組合等の被保険者及び被扶養者に対し、主に会場に出張して特定保健指導を実施した。初回支援を個別指導で実施し、以後6ヶ月間にわたり、プログラムにそって階層化で分類された動機付け支援・積極的支援を面接・電話・レター等で指導を実施した。

### ④メンタルヘルス事業のための保健指導

ストレスチェック制度の施行に伴いシステム化し、平成28年1月からストレスチェック事業を開始している。共同実施者契約を締結している事業所については、事業所実施事務従事者等に対してストレスチェック導入に関する啓発や助言等を行うとともに、実施者である産業医（面接医師）に対しては、高ストレス者選定方法についての事前打ち合わせを実施した。また、従業員からの電話相談対応、高ストレス者には医師の面接勧奨を電話やメールで行った。

加えて、メンタルヘルス対策の充実・強化のため、事業所職員のセルフケアについての健康教育に関して、傾聴法や怒りの対処法、交流分析等についての研修会を実施した。

#### ⑤H I V等の感染症に関する知識啓発、検査及び指導

夜間H I V抗体・性感染症検診及び即日H I V抗体・H B s 抗原検診等において、検査前の事前説明と検査結果説明を通じて保健指導を行い、予防に関する知識啓発を行った。

#### ⑥電話等による各種相談

当協会での受診結果について、電話等で各種の健康相談に応じ、夏季の脱水や感染症等時事的な健康問題をはじめ、受診結果以外の事柄等についても可能な範囲で健康相談に応じていくことで、広く県民の安心に寄与できるように努めた。

#### (6) 細胞診

神戸市子宮頸がん検診について、新たなステージに入ったがん検診総合支援事業として、過去5年間に受診歴のない25、27、29、31、33歳の対象者に受診勧奨ハガキが、また20歳を迎える市民に無料クーポン券がそれぞれ送付された。通常検診(20歳以上・2年毎)は、神戸市セット健診の約1,200件を含め約25,700件で、前年度より約2,700件増加した。無料クーポン券による検診は約1,000件で、前年度より2,800件減少した。各事業年度における検査数の増減は、受診勧奨と無料クーポン券の対象者数の増減によるものと考えられ、神戸市子宮頸がん検診全体では、約26,700件で、前年度とほぼ同じ件数であった。また、今年度より標本作製方法が直接塗抹法から液状処理細胞診(LBC)に変更となったことを受け、検査機器等を整備するなどし、より精度の高い検診を実施した。神戸市子宮頸がん検診以外の医療機関からの受託分については約3,400件で、前年度より約400件増加、また当協会施設内検診分については約8,900件で、前年度より約300件増加した。

喀痰細胞診について、神戸市肺がん検診は約8,100件であり、前年度より約300件減少した。このうちセット健診分は約3,500件であり、前年度より約800件増加した。一方、指定医療機関分は約4,600件で、前年度より約1,100件減少した。これは、神戸市がこれまで対象条件を拡大して受け入れてきた40歳代での検査を本来の50歳以上に見直すよう、医療機関への周知を図ったためと思われる。なお、当協会内部検査分は約500件で、前年度より約300件減少した。

#### (7) 腸内細菌検査

腸内細菌検査のスクリーニング法として遺伝子検査(マルチPCR)を導入して2年が経過した。これまでの培養法に比べ高感度なため、サルモネラ属菌の年間検出率はこれまでの3~4倍に当たる0.08%にまで増加した。しかしながら、依然として競合入札制度による受託検数の変動は否めない状況であり、今後安定した検体数を確保していくためにも、契約先のニーズに対応した付加価値(食品検査・衛生調査・精度重視)の充実を図り、実施件数の増加に繋げていく。

神戸市保健所からの感染症対策に基づいた腸内細菌(赤痢、パラチフス、腸管出血性大腸菌O157)及び喀痰検査については、今年度も引き続き検査を受託した。今後も検査精度の維持向上に努め、保健行政に貢献していく。



## (8) 作業環境測定

総合労働安全衛生機関として、「働く人の安全確保と健康の維持」並びに「事業者による作業環境のリスク管理の推進」を目的に健診事業と併せて、有害物質取扱い事業場を中心に屋内並びに屋外作業場あるいは居室を対象として、作業環境測定を実施した。

近年の有害物質の新たな法規制拡大や監視強化、事業者の健康意識の高まりを反映して、1,510箇所での測定を実施した。特に、昨今の産業活動に起因する健康被害や危険性・有害性の調査（リスクアセスメント）の義務付けに伴い、印刷、試験研究等に使用される有機溶剤等を対象とする測定を246箇所で行った。

今後も、特殊健康診断と一体となり、事業場の労働衛生のトータルサービス（健康管理・作業管理・作業環境管理）を提供していく。

## (9) 食品検査等

食品等事業者の保存試験や食中毒予防に関連した自主衛生管理に基づく検査であり、今年度の実施件数は、理化学検査において項目数で856件、細菌検査においては8,594件であった。

腸管出血性大腸菌、カンピロバクター、ノロウイルス等による食中毒予防や異物混入防止に対する消費者並びに食品等事業者の関心は常に高く、食品等事業者はより高度な衛生管理が求められており、今後も衛生管理指導、施設衛生調査、窓口相談業務の充実や、きめ細かい顧客対応により衛生管理体制の構築を支援していくとともに、今後はHACCPによる衛生管理が制度化され、事業者の規模・業種等に応じたHACCPによる衛生管理の実施が求められることから、食品等事業者における導入推進のための適切な指導、助言を行いHACCPの導入を支援していく。

## (10) 水質検査

今年度の実施件数は、建築物衛生法や飲用井戸に係る水質検査、プール及び公衆浴場等衛生管理上の水質検査は合計で1,966件であった。

今後も飲用に関わる水質検査及びプール・公衆浴場等の衛生確保に資する検査を中心に事業を進め、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

## (11) 水道施設検査（貯水槽水道検査）

ビル、共同住宅、学校等の一定規模の貯水槽を有する施設における水道設備の衛生的な維持管理にかかる検査であり、今年度の実施件数は、県下の水道法に規定される簡易専用水道が3,138件、有効容量が10m<sup>3</sup>を下回る小規模受水槽水道が772件、その他準用等を含めた合計は3,937件であった。

今年度は平成28年度に引き続き、神戸市による定期検査未受検小規模受水槽水道に対する巡回調査業務を受託し、郵送による受検勧奨、現地での点検実施及び啓発、あるいは情報収集を実施した。

貯水槽水道検査結果等は、設置者の了解を得たうえで、行政庁に速やかに代行報告することで、衛生上問題がある施設に対する行政の指導や、検査受検率の向上に寄与するとともに、引き続き貯水槽水道の管

理水準の向上や自主衛生管理を支援することにより、利用者の安全安心の確保に寄与していく。

### 3. 予防医学に関する調査研究事業

#### (1) 調査・研究

がん検診や特定保健指導をはじめとし、各種健診・検査において得られたデータ等をもとに調査研究を行い、様々な分野でそれらの成果を発表・発信した。

##### ①論文発表（総説論文、原著論文等）

- 高橋かおる：肥満者に多い検査異常値は？糖尿病リスクを高める生活習慣は？. 糖尿病ケア メディカ出版 vol4no. 7 : 50-51, 2017
- 益田襟子：兵庫県支部における対策型視触診併用乳がん検診の現状について－視触診除外の可能性とその問題点－. 予防医学ジャーナル 495 : 26-29, 2017
- 寺田洋祐：地域保健における COPD スクリーニングおよび禁煙サポート業務への着手について. 予防医学ジャーナル 495 : 75-78, 2017
- 池窪勝治：橋本病の甲状腺機能異常症の管理に関する研究. 総合健診 日本総合健診医学会（JHEP） Volume 44/Number 6 November (801-812)55-66, 2017
- 富田安彦：Tomita Y, et al. Kawasaki disease: Epidemiological differences between past and recent periods, and implications of distribution dynamism. Pediatrics International 60, 349- 356, 2018

##### ②学会報告等

- 山浦泰子：大動脈弁硬化と頸動脈プラークと動脈硬化危険因子との関連：無症候の勤労者における検討. 第 28 回日本心エコー図学会学術集会. 名古屋. 2017. 4. 21-23
- 高橋かおる：ストレスチェックと HbA1c 値との関連について, 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 愛知, 2017. 5. 18-20
- 田中安希子：中高年男性勤労者における隠れ肥満の生活習慣と効果的な保健指導の一考察－HbA1c と特定健診標準的な質問票との関連－, 第 56 回近畿公衆衛生学会, 大阪, 2017. 5. 25
- 平田奈穂美：結核検診データ結果を活用した COPD 健診対象者選定と実施報告, 第 35 回予防医学事業中央会全国情報統計研修会, 兵庫, 2017. 9. 1
- 益田襟子：対策型 MMG 視触診併用検診から視触診を除外した場合の検診精度の評価と課題について (MMG 単独検診に向けて), 第 27 回日本乳癌検診学会学術総会, 徳島, 2017. 11. 10-11
- 田中安希子：超高齢社会の健診事業を考える－もの忘れリスク健診&フレイル健診の事業報告－, 第 52 回予防医学技術研究会議, 長崎, 2018. 2. 22-23

○上田いずみ: ストレスチェック制度における共同実施者業務の実際ー保健師が共同実施者になった場合ー, 第 52 回予防医学技術研究会議, 長崎, 2018. 2. 22-23

○大本恭子: 看護師による特定健診当日結果説明の取り組みと課題, 第 52 回予防医学技術研究会議, 長崎, 2018. 2. 22-23

○中安郁子: 健診当日実施の特定保健指導の実施状況, 第 52 回予防医学技術研究会議, 長崎, 2018. 2. 22-23

○村上亜希: 乳がん検診ーマンモグラフィ検診の現状についてー, 第 9 回 KBCOG 神戸市民フォーラム, 兵庫, 2018. 2. 24

○山浦泰子: Effect of Smoking Status and Smoking Cessation on Aortic Sclerosis in Asymptomatic Working Subjects, 第 82 回日本循環器学会学術集会, 大阪, 2018. 3. 23-25

## (2) 健診・検査で得られたデータの活用

### ①事業年報の配付

内容の充実を目的に、平成 28 年度事業年報の編集において、地域保健で COPD スクリーニング及び禁煙サポート事業、学校保健で心臓二次検診、産業保健でストレスチェックを新しく加えた。

健康管理、健康対策の基礎資料等として地方公共団体・保健医療機関等広く配布し情報提供した。

### ②健診・検査データ等の活用

#### (ア) 統計解析や調査研究結果に基づいた判定や保健指導の実施

検査データの積み上げにとどまらず、問診データ等の諸条件に基づく複合的な統計処理を行い、生活習慣、既往歴等、更には性格的要素等と健診・検査データの関連性を見出し、実際のデータから得られた知見等を保健指導・栄養指導に有効活用した。

○中高年男性勤労者における隠れ肥満の生活習慣と効果的な保健指導の一考察ーHbA1c と特定健診標準的な質問票との関連ー

#### (イ) 統計解析や研究により取得した情報の提供

健診・検査データの統計処理から得られた知見や、健診で用いられる様々な検査の意義等の情報を講演会や学会等で発表し、健康管理に役立つ情報を積極的に発信した。

○ストレスチェックと HbA1c 値との関連について

## 4. 健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業

### (1) 健康づくり事業

#### ①健康学習

疾病予防や健康づくりに関する知識の普及啓発を目的に公開講座を開催した。「土曜健康科学セミナー

一」では疾病予防に関する知識や情報に加えて最新の医療情報や介護予防に結びつく内容を、また、「健康づくりセミナー」では食育や健康診断の検査項目に関するテーマを取り上げ、講演会だけでなくシンポジウム等受講者参加型セミナーも開催し、受講者にわかりやすく興味深いと好評を得た。

## ②健康づくり教室

神戸市健康づくりセンター指定管理者共同事業体であるオージースポーツと協力し、運動不足やストレス等により健康を損ないがちな県民等に対し、栄養・運動・休養の総合的な面から個々人に適した健康的なライフスタイルを確立できるよう、また、年代や性別、個人の体力や知識レベルにあわせて選べるように工夫し実践型教室を開催した。

### (ア) 生活改善コース

生活習慣病の予防と改善について料理と講話で学ぶ教室「いきいき食生活」等を引き続き月例で開催した。また、慢性腎臓病や糖尿病重症化予防教室等についても引き続き開催し、予防啓発に努めた。

### (イ) 介護予防コース

「認知症予防実践教室」に加え、身体を動かすことで得られるリフレッシュ感や、自分の体力の衰えを実感することで、日常生活での運動の必要性を理解し実践につなげる内容も提供した。

### (ウ) 食育推進コース

個々のレベルに合わせた調理実習や試食を通し、栄養と健康を考えた好ましい食生活をサポートする教室を開催した。

### (エ) すこやかコース

心の健康の必要性を知り、ストレスに対処する方法を講話や実習で体験する内容を提供した。

## ③禁煙外来

健診センターにおいて、予防医学の観点からニコチン依存症に対する禁煙治療を保険診療で実施した。

今後も当協会の受診者を中心にPRしていくとともに、3ヶ月以内に5回の来協が必要であることから、受診者のモチベーションを維持するための工夫を検討していく。

## (2) 健康づくり支援事業

勤労者や各種団体等を対象に、健康づくりプログラムを提案するとともに、管理栄養士・健康運動指導士等の専門スタッフを派遣し、健康づくりを支援した。また、健康ライフプラザのライフキッチン等の施設を活用し、実践に重点を置いたセミナーも行った。

健康ライフプラザに設置したセルフチェックコーナーでは、簡易に使える健康機器を来所者がいつでも使用できるように配置し、自主的な健康づくりの場として提供した。さらにこれらの機器を用いて、神戸市等がおこなうイベントに出向き、健康づくり活動の普及啓発を目的にした健康チェックを行い利用者に好評を得た。

## 《設備機器等の更新・整備》

### (1) 設備機器等の更新・整備

業務の改善を目的として、設備機器等の整備を行った。

- ①L B C標本作製装置一式
- ②胸部デジタルX線撮影装置（車載用）
- ③内視鏡ビデオシステム一式（2台）
- ④上部消化管ビデオスコープ（5台）
- ⑤脊柱デジタル撮影装置一式（3台）
- ⑥心音心電計（2台）
- ⑦心電計（6台）
- ⑧イオンクロマトグラフ
- ⑨大腸がん検診サブシステム一式
- ⑩便潜血自動免疫化学装置（2台）

## 《寄附金受納》

### ○寄附金額

10,000円（氏名は希望により非公表）

# 事業実績明細

(疾病予防のための健康診断及び検査事業・健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業)

事業名	種別	内容	件数等		
			当年度	前年度	増減比
疾病予防のための健康診断及び検査事業	地域保健	特定健康診査等	62,130人	61,130人	101.6%
		がん検診(施設実施分含む)	128,758人	129,170人	99.7%
		結核検診	53,368人	53,909人	99.0%
		エイズ検診	2,406人	2,279人	105.6%
	学校保健	腎臓・糖尿病検診	365,167人	368,013人	99.2%
		寄生虫検査	12,063人	20,573人	58.6%
		心臓検診	75,278人	74,895人	100.5%
		脊柱検診	27,219人	27,557人	98.8%
		結核検診	74,254人	77,087人	96.3%
	産業保健	一般健診	163,257人	166,452人	98.1%
		特殊検診	19,019人	18,247人	104.2%
		協会けんぽ生活習慣病予防健診	24,219人	23,807人	101.7%
		がん検診(施設実施分含む)	90,804人	80,014人	113.5%
		労災二次健診	101人	127人	79.5%
		ストレスチェック	27,757人	27,882人	99.6%
	総合健診	総合健診	6,534人	6,454人	101.2%
	保健指導	特定保健指導等	651人	577人	112.8%
	細胞診	子宮がん細胞診	39,024件	38,360件	101.7%
		喀痰細胞診	8,510件	9,123件	93.3%
	腸内細菌検査	腸内細菌検査	81,463件	86,848件	93.8%
作業環境測定	作業環境測定	1,510件	1,422件	106.2%	
食品検査等	食品検査	9,450件	9,793件	96.5%	
水質検査	水質検査	1,966件	2,218件	88.6%	
水道施設検査	簡易専用水道検査等	3,937件	4,076件	96.6%	
健康支援のための健康増進事業及び健康教育事業	健康づくり事業	健康学習・健康づくり教室	5,822人	5,963人	97.6%
	健康づくり支援事業	講師派遣等	97回	82回	118.3%